

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2012年第44週
(10月29日～11月4日)

- * 2012年11月7日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「感染性胃腸炎」も記載しています。

平成24(2012)年11月8日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2012年44週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		41週	42週	43週	44週		44週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	65	80	87	80	3,842	366	24,448
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢	1	3	1	1	60	3	187
	腸管出血性大腸菌感染症	6	27	6	3	238	33	3,456
	腸チフス			1		10		28
	パラチフス			1		9		19
四類	E型肝炎	2		1		15		98
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			29	3	142
	エキノкокクス症						1	12
	黄熱							
	オウム病							6
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱	1	1			3		7
	つつが虫病				1	4	4	211
	デング熱	4	1	2	3	50	4	192
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						5	150
	日本脳炎							2
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ポツリヌス症							3
マラリア		1			20	1	67	
野兔病								
ライム病							9	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		2			47	13	720	
レプトスピラ症				1	5	2	27	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		41週	42週	43週	44週	年累計	44週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	2	3	3	161	13	748
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1	1	3	46	1	187
	急性脳炎 *2			1		28		310
	クリプトスポリジウム症					2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			13	2	153
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1		20	2	211
	後天性免疫不全症候群	13	15	8	9	393	17	1,189
	ジアルジア症	1			1	12	1	61
	髄膜炎菌性髄膜炎						1	11
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	9	2	3	4	240	10	731
	破傷風					4	3	95
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	10	2	79
	風しん	18	24	16	11	508	17	1,960
	麻しん	2	1			73	3	277
2012/11/7集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 80件 肺結核 46件、その他の結核 7件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 23件、疑似症 3件、年齢は10歳未満 3件(うち5歳未満 2件)、10代 2件、20代 15件、30代 7件、40代 9件、50代 9件、60代 18件、70代 7件、80代 9件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 75件、中国 2件、韓国 1件、国内又は韓国 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、年齢は50代、菌種はフレキシネル、推定感染地はグアテマラ、推定感染経路は経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者 3件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 1件、O103 VT1 1件、O157 VT(型不明) 1件、年齢は10代 1件、30代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 2件、その他(不明) 1件であった。

〈四類感染症〉

つつが虫病 1件 患者、年齢は70代、推定感染地は国内であった。

デング熱 3件 患者 3件、年齢は20代 2件、40代 1件、推定感染地はインド 2件、カンボジア 1件であった。

レプトスピラ症 1件 患者、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路はネズミからの感染であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管 2件、腸管及び腸管外 1件、年齢は50代 3件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触 2件(同性間 1件、性別不明 1件)、経口感染 1件であった。

ウイルス性肝炎 3件 B型 2件、その他(サイトメガロウイルス) 1件、年齢は30代 3件、推定感染地は国内 2件、韓国 1件、推定感染経路は性的接触 2件(同性間 1件、異性間 1件)、その他(不明) 1件であった。

後天性免疫不全症候群 9件 AIDS 1件、無症候キャリア 5件、その他 3件、AIDS患者の年齢は30代、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 4件、30代 2件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 9件、推定感染経路は性的接触(同性間) 7件、不明 2件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅰ期 1件、早期顕症梅毒Ⅱ期 1件、無症候梅毒 2件、年齢は20代 1件、40代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は性的接触 3件(同性間 2件、異性間 1件)、その他(不明) 1件であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 遺伝子型は不明、年齢は70代、推定感染地はペルー又はアメリカ、推定感染経路は接触感染であった。

風しん 11件 検査診断例 11件、年齢は10代 2件、20代 4件、30代 4件、40代 1件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染又はその他 1件、その他 6件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、接種なし 3件、不明 7件であった。

※ 第41週で報告のあった、〔五類〕梅毒 1件は削除された。

定点把握対象疾患 報告数 2012年44週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		41週	42週	43週	44週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	359	297	254	171	0.66	260	264
	咽頭結膜熱	72	84	82	77	0.30		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	300	339	341	369	1.42		
	感染性胃腸炎	770	1,073	1,244	1,461	5.62		
	水痘	128	103	178	141	0.54		
	手足口病	128	103	103	103	0.40		
	伝染性紅斑	9	13	12	10	0.04		
	突発性発しん	172	172	164	145	0.56		
	百日咳	4	3	9	11	0.04		
	ヘルパンギーナ	79	46	58	25	0.10		
	流行性耳下腺炎	76	51	59	48	0.18		
	川崎病(注1)	6		2	6	0.02		
	不明発しん症(注1)	32	32	24	16	0.06		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	17	19	16	20	0.05	415	419
眼科	急性出血性結膜炎			1	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	12	17	14	15	0.38		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2		3			25	25
	無菌性髄膜炎	1	4	2	4	0.16		
	マイコプラズマ肺炎	30	33	36	29	1.16		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		1	1	1	0.04		
	インフルエンザ入院(注4)	1	1		1	0.04		
2012/11/7集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・RSウイルス感染症の定点当り報告数は先週からさらに減少した。
- ・感染性胃腸炎の定点当り報告数は3週連続で増加した。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当り報告数は微増した。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

港区

- ・感染性胃腸炎急増。43名中、ロタウイルス1名、ノロウイルス6名。

江東区

- ・インフルエンザA型1名。

世田谷区

- ・クループ3名、アデノウイルス迅速キット陽性2名、頭ジラミ感染症2名。
- ・マイコプラズマ感染症疑い(7歳児、8歳児)。嘔吐・下痢症が急増しています。

中野区

- ・インフルエンザA型3人。

杉並区

- ・インフルエンザA型1名。

北区

- ・近隣の小学校で感染性胃腸炎の集団感染があったようです(10/31前後に集中して受診)。

荒川区

- ・感染性胃腸炎4名中、病原性大腸菌O1、O126、カンピロバクター各1名。

足立区

- ・エンテロウイルス感染症1名(2歳児)。

葛飾区

- ・マイコプラズマ肺炎(5歳児)。

八王子市

- ・アデノウイルス感染症(11ヶ月児、3歳児、4歳児)。
- ・アデノウイルス感染症(2歳児)。

南多摩

- ・感染性胃腸炎が増えています。
- ・保育園で手足口病の小流行あり。
- ・RSウイルス感染症5名中、うち1名入院。アデノウイルス感染症患者がまだいる。感染性胃腸炎が目立っている。

多摩小平

- ・マイコプラズマ肺炎1名。
- ・マイコプラズマ肺炎3名。ロタウイルス性腸炎1名。病原性大腸菌12名。
- ・胃腸炎が多い。
- ・手足口病が発生している。目立った流行はなし。発熱の患者は多いが、インフルエンザの流行はない。
- ・インフルエンザB型1名。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年44週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	31			18				4	2	
～1歳	39	2	3	103	4	8		46		2
1歳	72	7	2	252	19	36		83		5
2歳	17	15	12	143	21	17	2	8		8
3歳	8	4	26	118	18	13	2	4		3
4歳	2	17	42	124	32	7	1			1
5歳	1	11	61	116	21	11	2			1
6歳	1	6	54	92	8		3			
7歳		4	43	80	5	4				2
8歳		2	38	63	6	2				
9歳		1	29	53	2	2			2	1
10～14歳		7	44	140	4	1			1	1
15～19歳			3	35						
20～29歳		1	12	124	1	2			6	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	171	77	369	1,461	141	103	10	145	11	25
先週比	-83	-5	28	217	-37		-2	-19	2	-33

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月			1			
～1歳		2	3			
1歳	2	2	2			
2歳	4		5	2		
3歳	2					
4歳	1	2	3		1	
5歳	10		1	1		
6歳	7			2		
7歳	8		1			
8歳	2			1		1
9歳	3			1		
10～14歳	5			8		
15～19歳	1					
20～29歳	3					3
30～39歳				3		7
40～49歳				2		2
50～59歳						1
60～69歳						1
70～79歳						
80歳以上						
合計	48	6	16	20	1	15
先週比	-11	4	-8	4		1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年44週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳	2	
20～29歳	4	
30～39歳	4	
40～49歳	1	
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	11	

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年44週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				5	4	1				
中央区	4		4	7	1	5		1		1
みなと	6	1	7	57	4	6		3		
新宿区	11	3	20	18	1	1	1	5		
文京		1		8		2		1		
台東	3	1	6	34	4	3		2		
墨田区	6		2	20	1			1		
江東区	5	3	19	60	6	12	2	6		
品川区	2	2	12	62	2	1		3	3	
目黒区			1	19	2	2	1			
大田区	14	13	14	98	12	1		4	1	2
世田谷	12	2	33	146	13			11		1
渋谷区			3	23	4			2		
中野区	1	1	15	32	2	2		1		
杉並	1		8	45	1			8		
池袋				11					1	1
北区	3	1	1	50	7	2		3		
荒川区	3	22	6	21	4			8		3
板橋区		5	3	21	3	2		2		1
練馬区	4		14	39	4	1		8	1	
足立	7	3	11	84	2	6	2	10		2
葛飾区		1	13	52	4	1	1	5		
江戸川	7	5	21	97	5	6	1	10	2	1
八王子市	27	3	25	100	8	6		12		
町田市	6		29	58	4	5		3		2
西多摩	7		3	31	8	3			1	1
南多摩	9	4	9	41	3	14		6		1
多摩立川	7		23	50	2	3		6		1
多摩府中	10	1	26	108	14	9	2	12	1	2
多摩小平	16	5	40	64	16	9		12	1	1
島しょ			1							5
東京都合計	171	77	369	1,461	141	103	10	145	11	25

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年44週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区						
みなと						
新宿区	1					
文京	1					1
台東		1				
墨田区			1	1		
江東区	2		2	1		
品川区						
目黒区						
大田区	7		1			1
世田谷			2	1		1
渋谷区	1	1				2
中野区	2	1	1	3		
杉並	8			1		
池袋	1					
北区	7	1	1			1
荒川区	1		1			
板橋区			2	1		
練馬区	2		1			2
足立	3					1
葛飾区	1				1	
江戸川	4		1			
八王子市	2					2
町田市	2		1	2		
西多摩	1			7		
南多摩		1				1
多摩立川	1	1		2		1
多摩府中	1		1			
多摩小平			1	1		2
島しょ						

東京都合計	48	6	16	20	1	15
-------	----	---	----	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと	1	
新宿区	1	
文京		
台東		
墨田区	1	
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷	1	
渋谷区		
中野区	3	
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区	2	
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市	1	
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川	1	
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	11	
-------	----	--

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年44週

定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				1.67	1.33	0.33				
中央区	1.33		1.33	2.33	0.33	1.67		0.33		0.33
みなと	1.00	0.17	1.17	9.50	0.67	1.00		0.50		
新宿区	1.38	0.38	2.50	2.25	0.13	0.13	0.13	0.63		
文京		0.25		2.00		0.50		0.25		
台東	0.75	0.25	1.50	8.50	1.00	0.75		0.50		
墨田区	1.20		0.40	4.00	0.20			0.20		
江東区	0.56	0.33	2.11	6.67	0.67	1.33	0.22	0.67		
品川区	0.25	0.25	1.50	7.75	0.25	0.13		0.38	0.38	
目黒区			0.20	3.80	0.40	0.40	0.20			
大田区	1.08	1.00	1.08	7.54	0.92	0.08		0.31	0.08	0.15
世田谷	0.75	0.13	2.06	9.13	0.81			0.69		0.06
渋谷区			0.75	5.75	1.00			0.50		
中野区	0.14	0.14	2.14	4.57	0.29	0.29		0.14		
杉並	0.10		0.80	4.50	0.10			0.80		
池袋				2.20					0.20	0.20
北区	0.43	0.14	0.14	7.14	1.00	0.29		0.43		
荒川区	0.75	5.50	1.50	5.25	1.00			2.00		0.75
板橋区		0.56	0.33	2.33	0.33	0.22		0.22		0.11
練馬区	0.33		1.17	3.25	0.33	0.08		0.67	0.08	
足立	0.54	0.23	0.85	6.46	0.15	0.46	0.15	0.77		0.15
葛飾区		0.13	1.63	6.50	0.50	0.13	0.13	0.63		
江戸川	0.58	0.42	1.75	8.08	0.42	0.50	0.08	0.83	0.17	0.08
八王子市	2.45	0.27	2.27	9.09	0.73	0.55		1.09		
町田市	0.75		3.63	7.25	0.50	0.63		0.38		0.25
西多摩	0.88		0.38	3.88	1.00	0.38			0.13	0.13
南多摩	1.00	0.44	1.00	4.56	0.33	1.56		0.67		0.11
多摩立川	0.50		1.64	3.57	0.14	0.21		0.43		0.07
多摩府中	0.53	0.05	1.37	5.68	0.74	0.47	0.11	0.63	0.05	0.11
多摩小平	1.07	0.33	2.67	4.27	1.07	0.60		0.80	0.07	0.07
島しょ			1.00							5.00

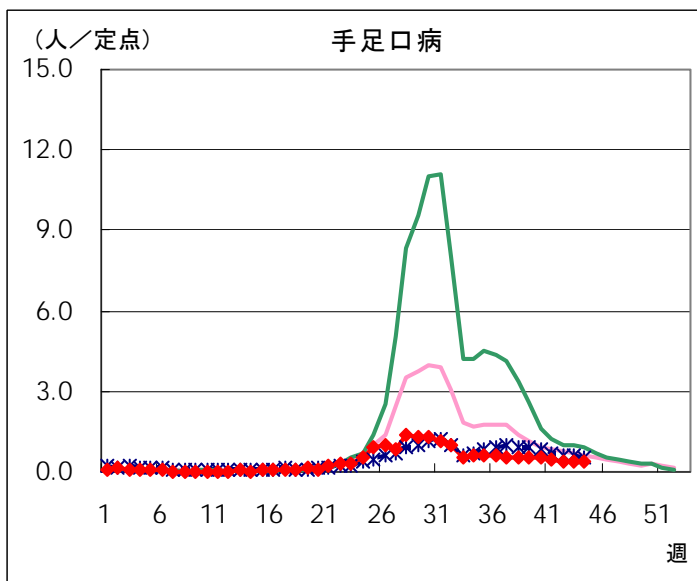
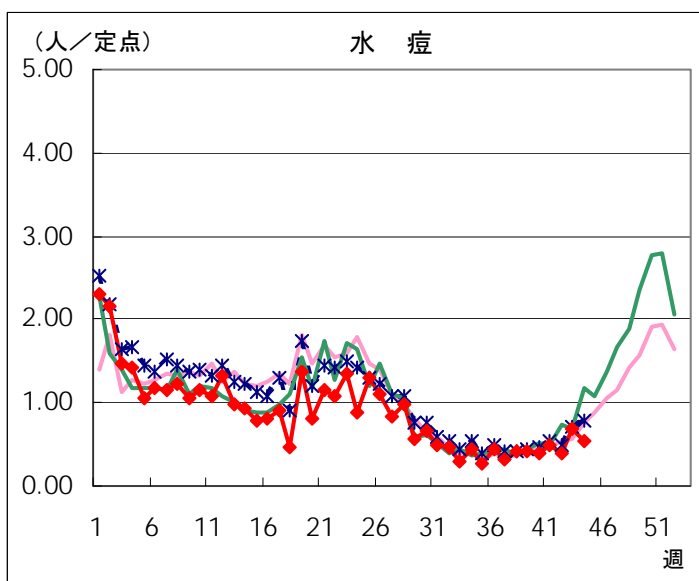
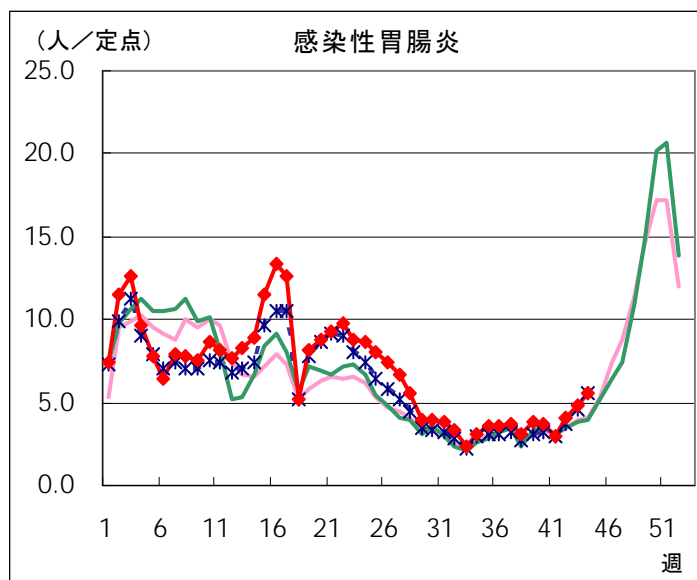
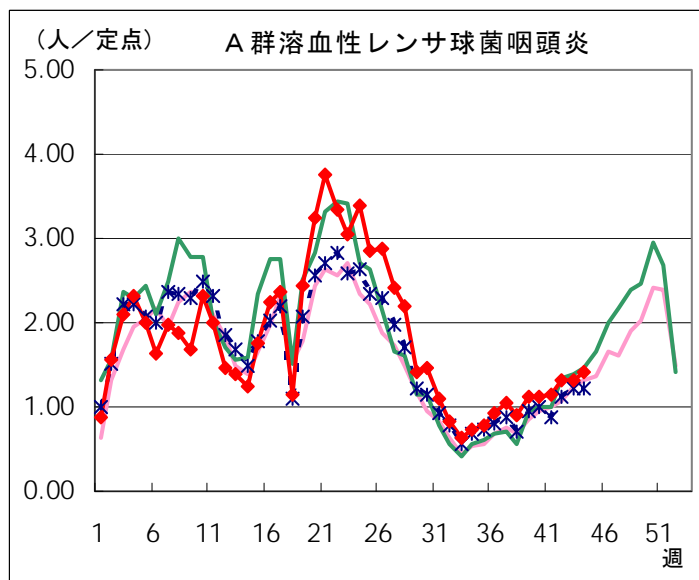
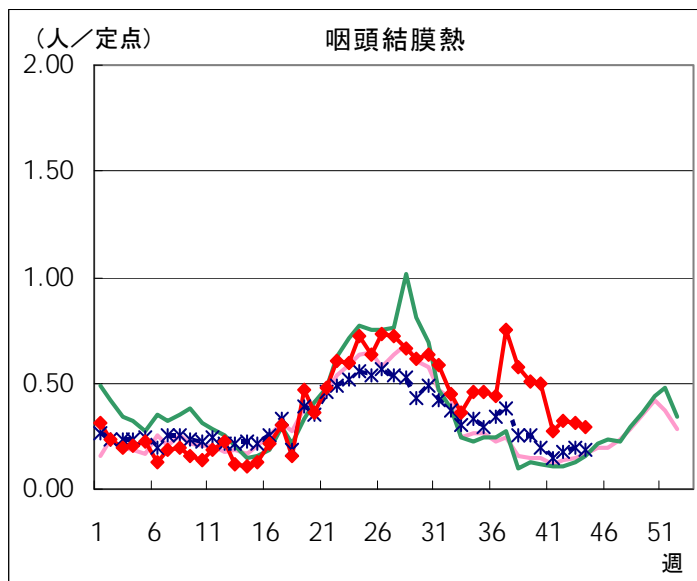
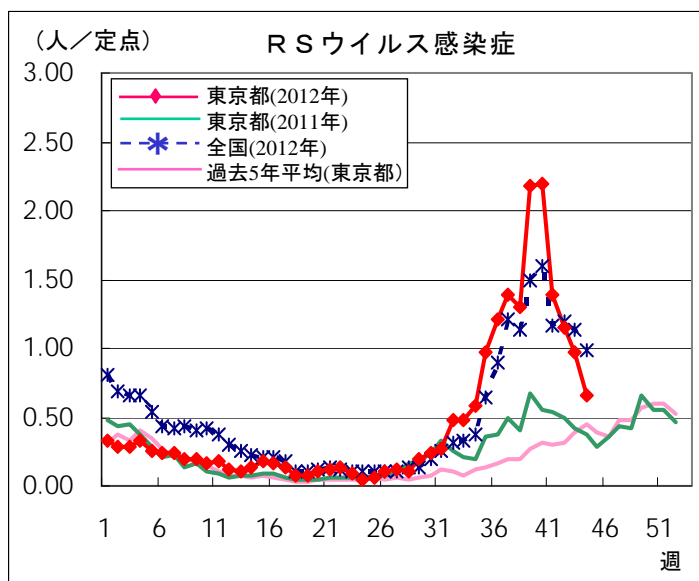
東京都	0.66	0.30	1.42	5.62	0.54	0.40	0.04	0.56	0.04	0.10
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

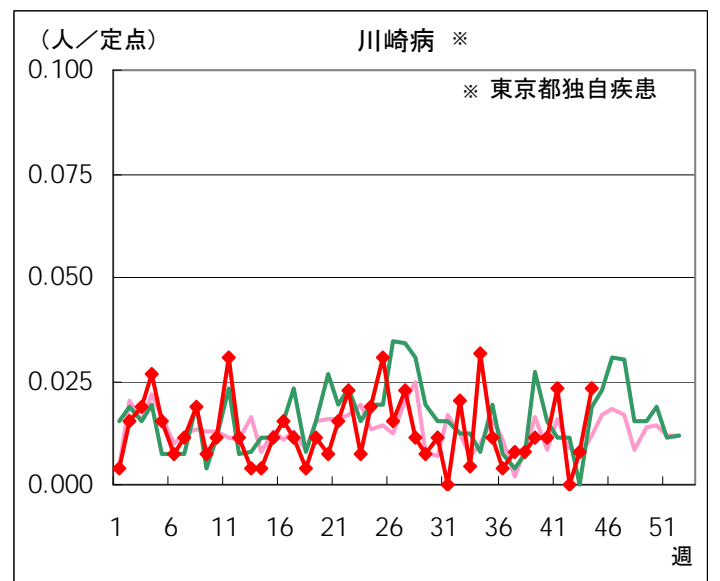
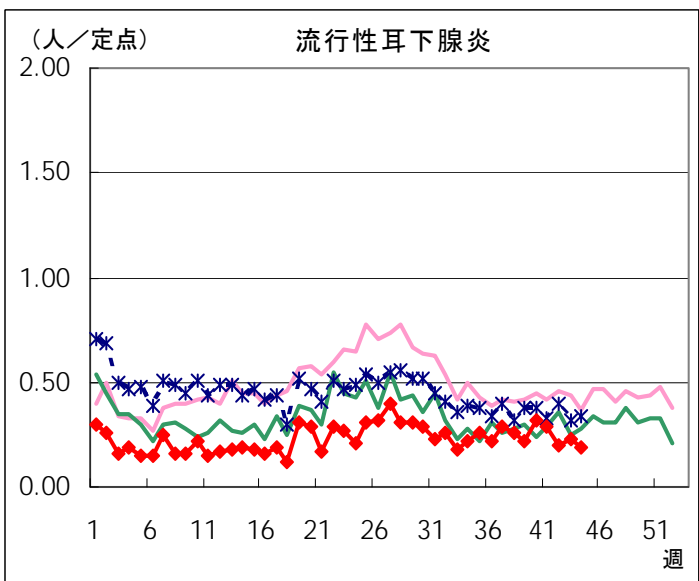
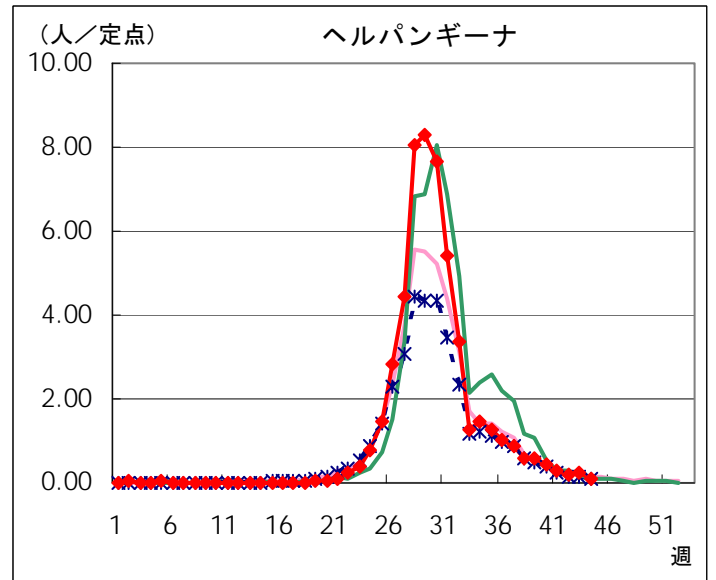
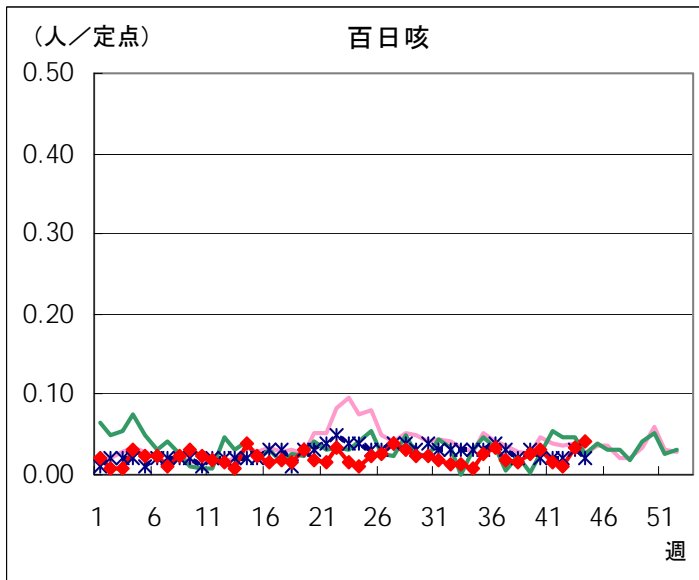
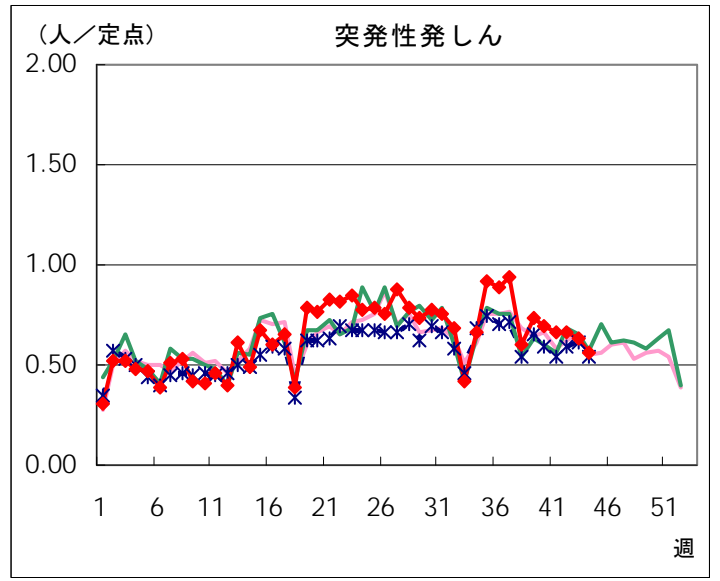
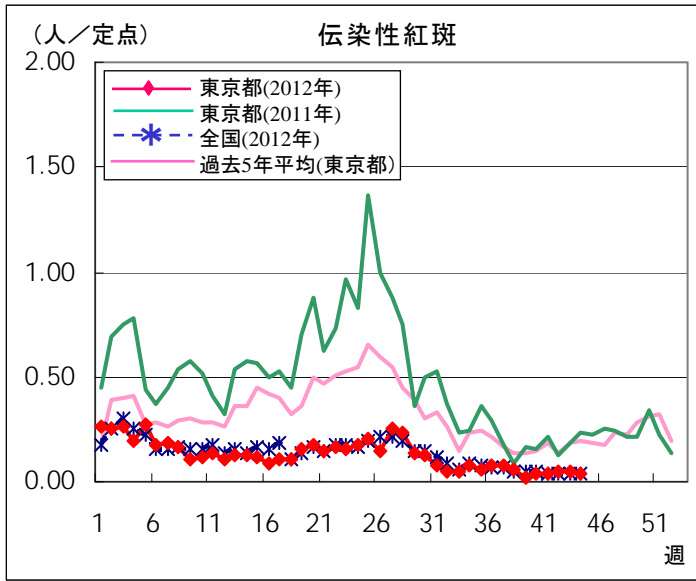
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区						
みなと						
新宿区	0.13					
文京	0.25					1.00
台東		0.25				
墨田区			0.20	0.13		
江東区	0.22		0.22	0.07		
品川区						
目黒区						
大田区	0.54		0.08			0.50
世田谷			0.13	0.04		0.50
渋谷区	0.25	0.25				2.00
中野区	0.29	0.14	0.14	0.27		
杉並	0.80			0.06		
池袋	0.20					
北区	1.00	0.14	0.14			1.00
荒川区	0.25		0.25			
板橋区			0.22	0.07		
練馬区	0.17		0.08			1.00
足立	0.23					0.50
葛飾区	0.13				1.00	
江戸川	0.33		0.08			
八王子市	0.18					1.00
町田市	0.25		0.13	0.15		
西多摩	0.13			0.50		
南多摩		0.11				1.00
多摩立川	0.07	0.07		0.10		0.50
多摩府中	0.05		0.05			
多摩小平			0.07	0.04		1.00
島しょ						

東京都	0.18	0.02	0.06	0.05	0.03	0.38
-----	------	------	------	------	------	------

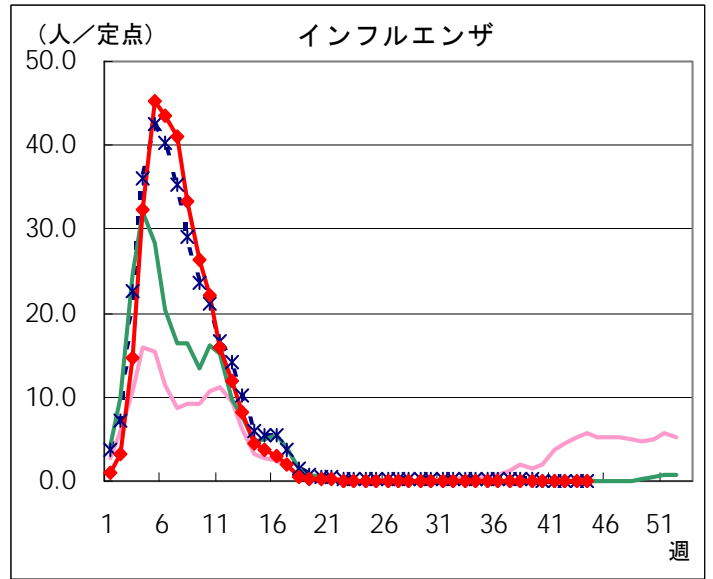
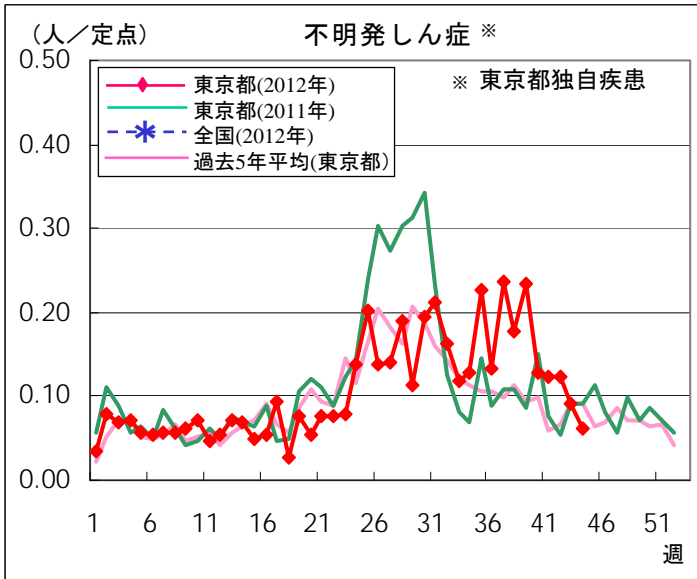
定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年44週現在

◆ 小児科定点

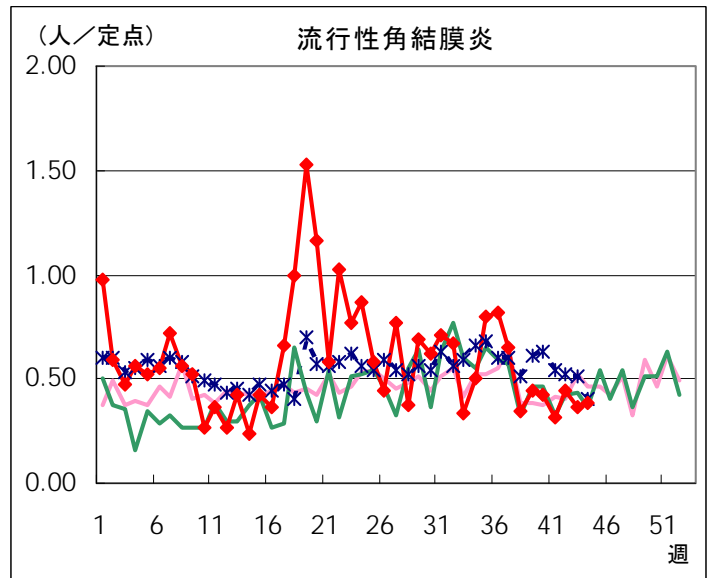
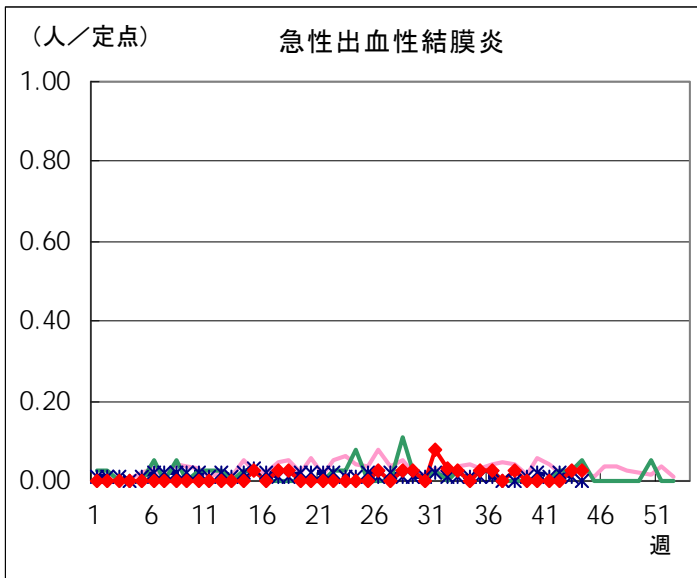




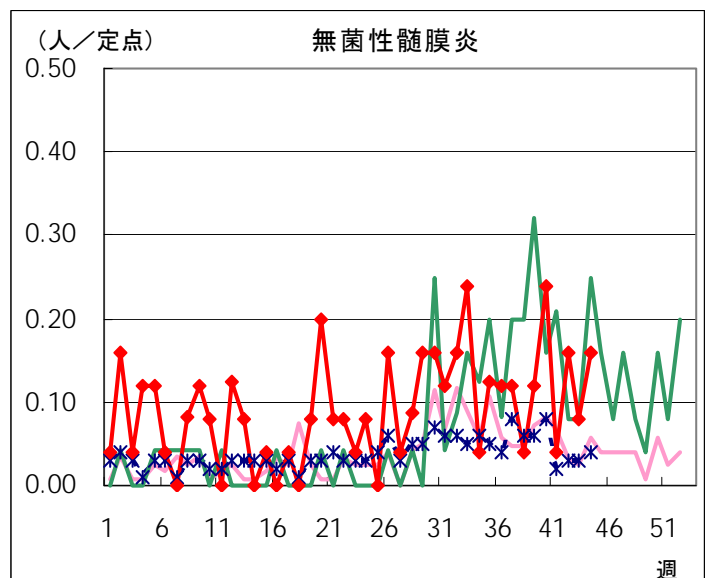
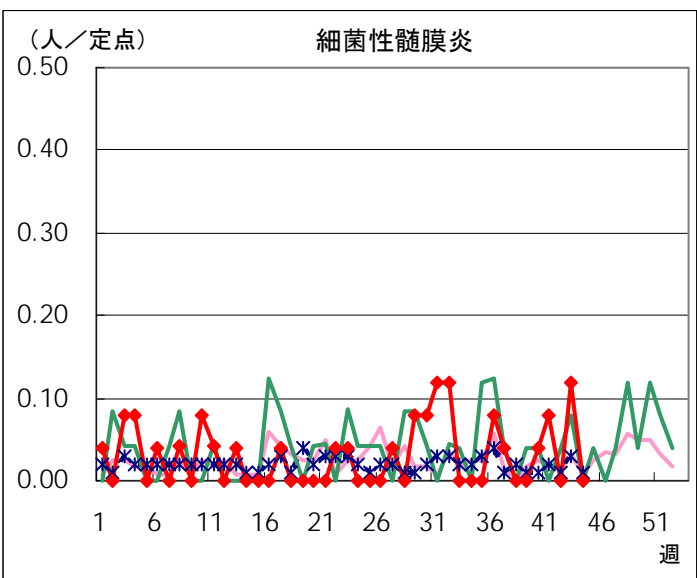
◆ インフルエンザ定点

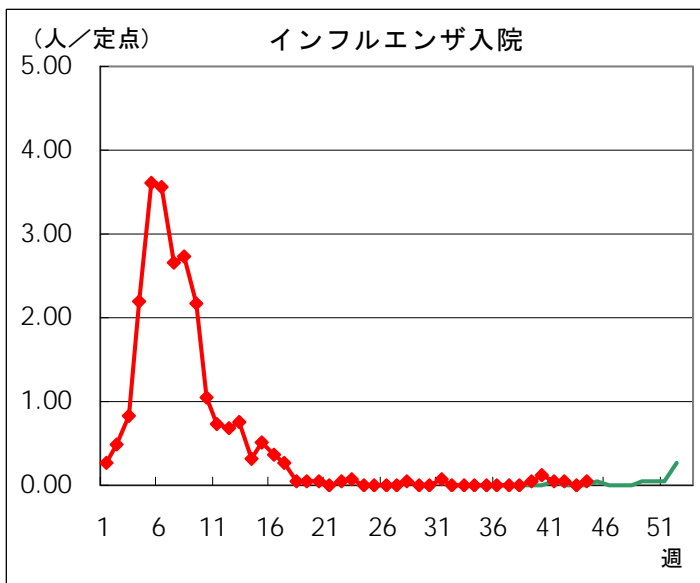
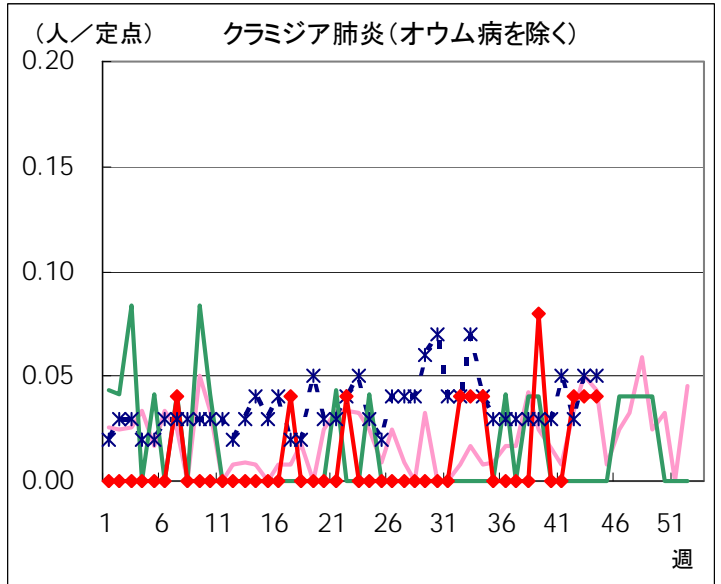
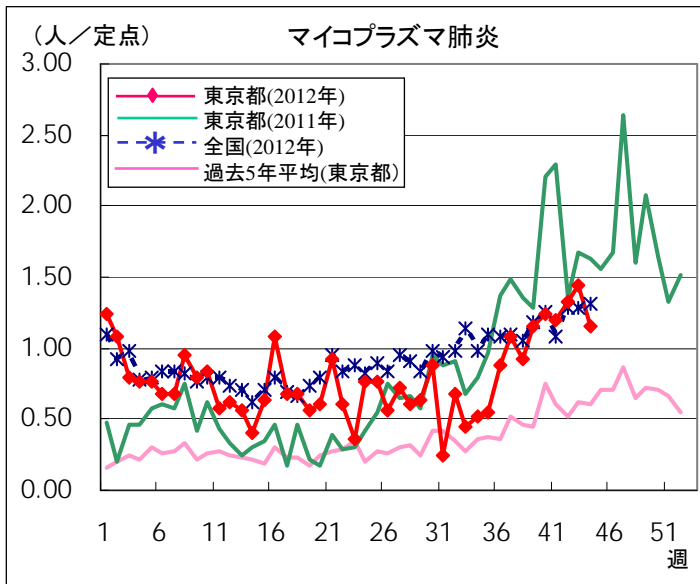


◆ 眼科定点

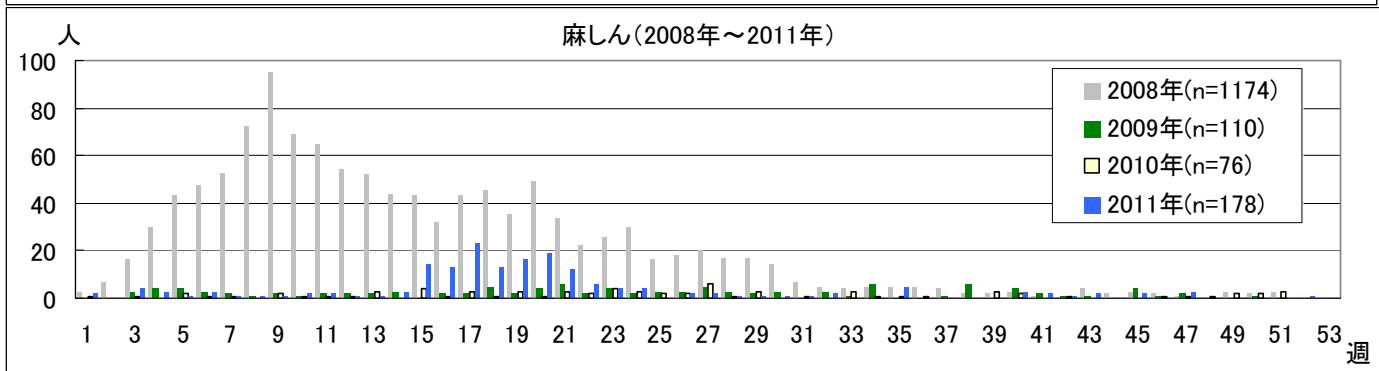
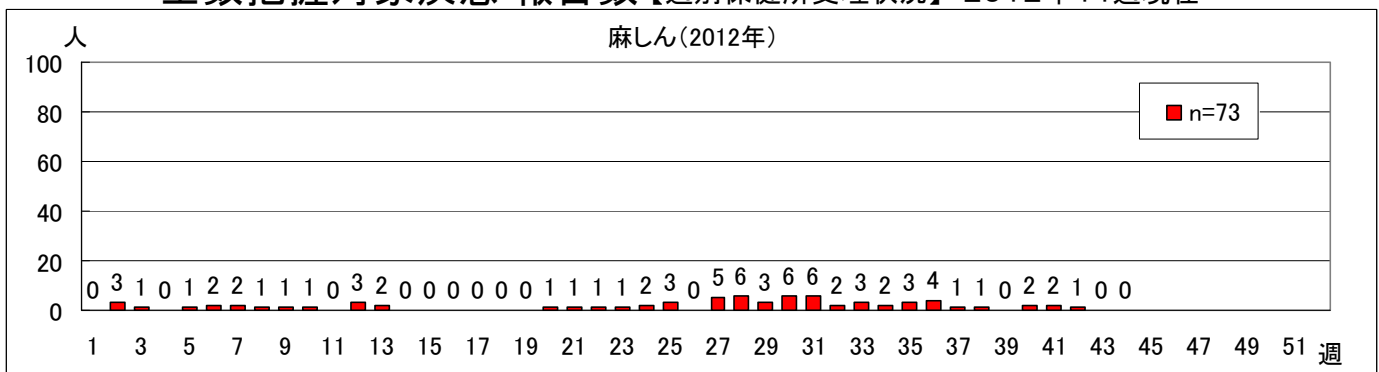


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年44週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/18	不明熱	0	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
10/24	急性気管支炎	5M	鼻汁	ライノウイルス	
10/22	発しん 気管支炎	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
10/18	肺炎 気管支喘息発作	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
10/24	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/16	突発性発しん	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
10/19	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/22	手足口病	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/22	熱性けいれん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
10/24	急性咽頭扁桃炎	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/16	咽頭炎 気管支炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス パラインフルエンザウイルス 1型	
10/23	ウイルス感染症	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/24	クループ症候群 (急性咽頭炎)	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 1型	
10/22	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
10/22	咽頭炎	10	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/22	流行性耳下腺炎	11	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/18	手足口病	12	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
10/17	気管支喘息	13	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/25	風しん疑い 麻疹疑い	49	咽頭拭い液	風しんウイルス	
10/19	感染性胃腸炎	記載なし	直腸拭い液	ノロウイルスG I・G II	
10/17	気管支炎	記載なし	鼻汁	ライノウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
43週			1	
2012-2013年 シーズン累計**			8	1

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週
ウイルス	アデノウイルス	4	5	4	6	2	3	3	1
	ライノウイルス	1	6	1	1	2	3	3	6
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群						1		
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス	1							
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	18	7	11	15	14	8	4	8
	単純ヘルペスウイルス								
	水痘・帯状疱疹ウイルス		1						
	ヘルペスウイルス6/7	8	5	3	3	5	3	1	3
	EBウイルス	3	1	3	2	3		1	
	サイトメガロウイルス		1						
	ムンプスウイルス				1		1		1
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス	1		1		2		1	1
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス	3	2	4	4	1		2	1
	ノロウイルス						1		2
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	1	3		3				1
	インフルエンザウイルスB							1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)			1			1			
その他のウイルス	3	1	1		1			2	
細菌	カンピロバクター		1			1			
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年36週～2012年43週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		12	41	50	19	24	13		5	10	10	1	30	7	1	2	6	104	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	1	6	3	1		6		3	3	1		2					2	
	ライノウイルス	2	4	7									3	1	1			5	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																	1	
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		1
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス		16	8		6	7			8	10	1	9	2					18
	単純ヘルペスウイルス																		
	水痘・帯状疱疹しんウイルス												1						
	ヘルペスウイルス6/7		3	1	1								13						13
	EBウイルス	1	3							3				1				1	4
	サイトメガロウイルス																		1
	ムンプスウイルス													3					
	麻疹ウイルス																		
	風しんウイルス																	5	1
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス		2	12							1								2
	ノロウイルス				3														
	ロタウイルス																		
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	8																		
インフルエンザウイルスB	1																		
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																		2	
その他のウイルス		2	4				1											1	
細 菌	カンピロバクター				2														
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

<感染症豆知識>

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、感染症法により五類定点把握疾患に定められ、都内 264 か所の小児科定点医療機関から毎週報告されている。毎年、11 月頃から症例数が増加し、12 月下旬ごろ最も報告が多くなる。年齢では、例年 1 歳代にピークが見られる。

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称である。原因となるウイルスには、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスなどがあるが、これらのなかでノロウイルスの報告が一番多い。

<ノロウイルスによる感染性胃腸炎>

1～3 日間の潜伏期間を経て、典型的には、嘔気・嘔吐、下痢・腹痛、37℃台の発熱がみられる。症状が続く期間は 1～2 日と短期間であるのが特徴である。ヒトからヒトへの感染と、汚染した食品を介して起こる食中毒に分けられる。

特別な治療法はなく、症状を軽減するための処置（対症療法）が行われる。乳幼児や高齢者では下痢などによる脱水症状を生じることがあり、早期の医療機関を受診することが大切である。高齢者は、嘔吐物が気管に入ることによって誤嚥性肺炎を起こす場合があり注意が必要である。また、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることがある。

最も重要なのは手洗いであり、特に排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗うことが大切である。また、便や吐物を処理するときは、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は十分に手を洗うことが重要である。カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱することが感染予防につながる（中心温度 85℃で 1 分以上の加熱が必要）。

（文責 東京都健康安全研究センター 杉下由行）